

気候変動への対策 緩和と適応

すでに影響が現れ、今後ますます深刻になる気候変動に対しては、温室効果ガスの排出量を減らすための「緩和策」と、気候変動による影響をできるだけ避ける・減らすための「適応策」があります。

気候変動の緩和策

① 温室効果ガスの排出を減らす

・省エネ家電を利用したり、生活での省エネで電気や燃料の使用を減らすことです。
〔省エネの方法は、「身近にできる」エコな生活〕のコーナーで

・太陽光・風力・水力などの再生可能エネルギーの普及が進められています。



環境科学センターに太陽光発電の整備

② 温室効果ガスの吸収を増やす

・CO₂を吸収する森林を整備したり、間伐を行って森林を保全することです。
・県民参加で里山林の整備が行われています。



県民参加による里山林の整備

③ CO₂を回収する

・排出されるCO₂を回収し、地中に封じ込める研究が進められています。

気候変動の適応策

① 食を守るための「適応」

出典：国立環境研究所 気候変動適応センター

気温の上昇や強い日射によって、米や果樹の品質が低下する影響が現れています。米では高温に強い品種に変える・作付け時期を変更する、果樹であれば日よけで強い日差しから守ることが行われています。



② 気象災害から暮らしを守るための「適応」

大雨による河川の氾濫、浸水被害を防ぐための整備や、いざという時の警戒避難体制の強化が進められています。私たち一人ひとりが、天気予報や防災アプリ、ハザードマップを確認し、災害に備えて身を守る準備をすることが重要です。

③ 健康を守るための「適応」

気温の上昇により、熱中症の患者が増えたり、病気を媒介する蚊の北上などの影響が現れています。水分補給などの熱中症の予防や、虫刺されに気をつけるなど、一人ひとりが健康を守るために行動することが重要です。

